



5

プレグナント・ホーネット

3

新米娼婦・アリス

3

監獄機

1

3

MELISAU  
REVERSE  
妄想パース

## カード詳細

3

お持ち帰り



名前 お持ち<sup>も</sup>帰<sup>かえ</sup>り

クラス ニュートラル

タイプ -

スペル

体力3以下の相手の場のフォロワー1体を自分の手札に戻す。

自分のPPが5以上の場合、・お持ち帰り ・監禁拘束

チョイスしたカードとしてプレイする。

「えへへ…大好きだよ、…あれ？いつから好きなんだっけ…？まあ、いっか」

セット： 妄想カードバックVol.エルフ

「ちゅっ……んちゅっ……あ……んんっ、れるっ、ちゅっ……」

辺境の街にある小さな宿屋。その一室で一組の男女が愛し合っていた。女の名前はアリサ。

あどけなく可愛らしい顔つきに健康的な身体、そしてとがった耳は彼女が森の守護者であるエルフだという証だった。

彼女は攫われた大切な友人を探すために森を出て、この街を訪れた所で軽い調子の男に声をかけられた。所謂ナンパをされたのだ。

「近寄らないで！」

下心が透けて見える男の行動に最初はやんわりと断っていたが、しつこさにより彼女は警戒を露に拒絶する。

男は舌打ちを一つすると、何かを彼女の前にかざした。

「んちゅっ……あふっ……ふあ……ちゅっ、だいすきっ♡」

ベッドの上で裸になり、出会ったばかりのナンパ男と恋人のように初めてのキスをする彼女。

先ほどまでの蔑んだ視線は無く、だたひたすら愛情に溢れている。

男は彼女の秘部に自らのモノを押し当て、彼女は受け入れるように脚を開いた。

「ん……わたし、こういうの初めてだけど……がんばるね」



「ふあああつっ……あなたののが、なかに入ってきてるよお……あんっ♡」

ピウッ

あつっ

ピクッ

んんん

ヌヌッ

ズッ



『ほいっちやった…♡うんっっ動いてっ♡』

んぎ

んぎ

んぎ

んぎ

んぎ





「♡おちおちおちおちおちおちおち」

びしょ  
びしょ  
びしょ  
びしょ  
びしょ

ぐんぐん  
びしょ

Mh

Mh

Mh

Mh

Mh  
Mh  
Mh

Mh

Mh

Mh

Mh

Mh

Mh

Mh



「あふふふ…♡いっぽいであな♡でもお…おん…から、ごよめ？」

パイコ





狭いベッドの上で男に抱き着くように眠るアリサ。  
彼女は幸せそうな顔を浮かべ安らかに寝息を立てていた。

どんな女でも魅了しモノにしていもう魔法が込められた呪具を片手で弄びながら、その寝顔をみつめる男。

その顔には愛情とは別の感情があった。

目を付けた獲物を手に入れた達成感・征服感・優越感：男はその満足感に浸る。

たしかに愛情はある。男はこれからも彼女を可愛がるだろう。  
だがそれは、「一人だけの愛する女」に対するものではなく、  
新しく手に入れた「都合のいい女達の一人」に対するものでしかない。

## カード詳細

3

監禁拘束



名前 かんきん こうそく  
監禁拘束

クラス ニュートラル      タイプ -

スペル

フォロワー1体をこのバトル中行動不能にする。

そのフォロワーはターン終了時、自分に2ダメージと相手のリーダーを  
2回復を持つ。

「むぐうっ!…ん、んむうっ!ふぐ…んんむうううううっ!!?」

セット: 妄想カードバックVol.エルフ

「ふぐう…ん、んむうつ…あむう…」

辺境の街の寂れた宿屋、その地下の一室に鎖が擦れる音とくぐもった女性らしきうめき声が響く。

鎖に繋がれた彼女の名前はアリサ。

あどけなく可愛らしい顔は拘束具で塞がれ、乳と大きくなっただお腹を強調するような衣装を身に着けたその姿は、かつての健康的な彼女の見る影すらない。

数か月前、攫われた友人を探すために街で情報収集をしていた彼女は友人の行方を知っているという宿屋の主人の元へ訪れた。

当然警戒はしていたが、男の優しく親身な様子と襲われても抵抗できると思った彼女の警戒心は薄れていく。

そして出された飲み物を飲んだ時には手遅れだった。

そして彼女は宿屋の裏サービスの一つとなった。

鎖に繋がれ食事・トイレ・睡眠その全てを管理されながら、数多の【客】に犯される日々が過ぎていく。

日に日に大きくなっていくお腹の重さを感じながら、また一人客が訪れる足音が聞こえる。

そして彼女の囚われている部屋の前で止まった。



「ふぐう……んぐっ！？んんう！」

前戯も無しにいきなり挿入されるアリサ。  
欲望を満たす道具としか思われていない扱いにも関わらず、調教された  
彼女の秘部は溢れるほど濡れていた。

んむっ

んじっ

ヌ  
プ  
ッ

ヌ  
プ  
ッ



「んぐっ、んんっ、んぐうっ、んんむうっ」  
遠慮なく打ち付けられる衝撃と快感で漏れるうめき声に甘い響きが混じる。  
挿入されたモノが脈打つの感じた彼女は拒絶するように嫌、嫌と頭を振るが  
客の男はさらに奥深く突き挿した。

ズズズ



「おっぱい」

ビョウ

ビョウ

ビョウ

ビョウ

ビョウ

「んぐ……ぐすっ……ああう……」

ごぼりと膣内から溢れ出る白濁。  
満足した客の男はアリスをそのまま放置したまま部屋を出て行った。  
そしてまた入れ替わりに新たな客が彼女の部屋に入ってくる。  
彼女の身体を使った「サービス」はまだまだ終わらない。

ドロオ……

「あおっおっおっあうっ」

今日も何人の欲望を受けたのだろうか。  
かつての目的や意志など欠片も残っていない。  
全身を白濁に汚しながら、絶望に染まることしかできなかつた。







宿屋の主人が"女達"の様子を見に行く。  
宿泊サービスとして提供している地下室に捕らえた数人の女達。

どの娘達も白濁に汚れ切り、汚物に塗れた娘もいる始末だ。

あまり手荒に扱わないように言っているのだが、元々客達の質は良くないので仕方がなかった。

今からこの娘達の身体を洗い、食事を与え、世話をしなければならぬ。  
また明日もその次の日も、この娘達には金を稼いで貰わなければならないのだ。

## カード詳細

3

催眠導入



名前 さいみん どうにゅう  
催眠導入

クラス ニュートラル

タイプ -

スペル

相手のフォロワー1体を次の自分のターン終了まで行動不能にする。

完全雌犬化 を手札に加える。

「さて…、なにを命令してやろうか」

セット： 妄想カードバックVol.エルフ

「私の矢があなたを貫くっ！」

エルフの少女アリサは数人の荒くれ者に襲われていた。

自分が狙われているのは分かっていた、街を歩いていたら時から下卑た視線を感じていたのだ。

そして街を出て人気のない草原に出たところで囲まれたのだ。

「へへ…大人しくしろぶべっ!?!」

近寄ってきた男を容赦なく蹴り飛ばす。森の守護者として修業を積んできた彼女にとって他愛もない相手だ。

次々と倒し、残ったリーダー格であろう男に弓を向ける。彼女の勝利だった。

しかし、不意に彼女の腕がだらんと下がる。その瞳はうつろで虚空を見つめていた。

男が使った禁忌の魔術【雌犬化の呪文】。

とある帝国の兵士崩れであるこの男は、この魔術で王国の姫に忠誠を捧げるメイド騎士すら服従させた。

「くくっ…、さて調教の始まりだ」

そしてまた、この男は新たな獲物を前に下卑た顔を浮かべるのだった。

「伏せる」

男の命令に雌犬のポーズをとる彼女。スカートが捲れるのも構わず、脚を開くその姿に魔術の効き目を感じ満足気な顔を浮かべる男。




「服を脱げ、まずは下からだ。」  
その命令に男の前でスカートを脱ぎ、秘部を露出させる。魔術の支配下にあっても羞恥心は感じるのか顔は赤く染まっていた。



「次は上だ、そうだいい子だ……」  
残った上着も脱ぎ、長手袋と脚装備だけという恥ずかしい姿になる彼女。  
恥部を全て晒した彼女に対して雌犬としての刷り込みを開始する男。





「いいか、お前はご主人様に尻尾を振って喜ぶ雌犬だ!」  
その命令を聞いた瞬間、身体をびくっと跳ねさせ目の前の「ご主人様」を見る彼女。  
するとうつつるな目のままその表情が歓喜に染まっていく。晒けだした股からは愛液が  
溢れ始め、ハツハツと舌を出しながら身体を上下に跳ねさせる。

「『今からお前は大好きなご主人様に立派な雌犬として調教されるんだ』」  
その声を聞いた瞬間、あまりの歓喜に身体を震わせ絶頂に達してしまふ彼女。そして  
四つん這いになり尻尾を振るようにお尻を振りながら、「ご主人様」についていった。





## カード詳細

1

完全雌犬化



名前 かん ぜん めすいぬ か  
完全雌犬化

クラス ニュートラル

タイプ -

スペル

相手の行動不能フォロワー1体を**従順な雌犬**に変身させる。

【**従順な雌犬**】 このフォロワーは行動不能。ターン終了時、相手のリーダーを1点回復。

「伏せ！お座り！いい娘だ…さあ、散歩の時間だ」

セット： 妄想カードバックVol.エルフ

「わんっわんっ、ご主人様あっ♡」

アリサが兵士崩れの男の魔術の餌食となつてしばらくたつた。男の手慣れた調教によつて"立派"に雌犬として調教されてしまつた彼女は装着された尻尾を振る。

彼女は完全に雌犬となつてしまつたのだ。



「わんっ♡わんっ♡はっ♡はっ♡」

散歩として連れ出したアリスに雌犬のポーズをとらせる男。彼女は嬉々として股を開き、身体を上下に揺する。犬を模した耳飾りと首輪、乳首ピアスと尻穴に挿入された犬の尻尾が揺れた。人としての尊厳を捨てた姿だが、彼女の瞳には目の前の男しか映っていない。

はっ♡

はっ♡

しゅっ...



「わんっ♡」

男の命令でその場でおしっこをする彼女。どんな恥ずかしい命令でも彼女は喜んで従う。命令されたという事実だけで絶頂に達する歓喜が彼女を震わせる。

はっ♡

はっ♡

キョウウウウ...



「くくっ、立派な雌犬だ…。飽きるまで。可愛がってやるからな」

「はいっ♡♡しゅじんさまっ♡わんっ♡♡」

男の命令で男のつぶやきに元気よく答える彼女。その瞳はうつろいではなく光がともり、熱い視線を「主人様」に向けていた。

それは雌犬化の魔術による刷り込みが完全になってしまった証。

彼女はもう「自分の意思」で雌犬となっているのだった。





愛する【ご主人様】の元で愛玩ペットとして愛される日々。  
【ご主人様】には他にもたくさん私なんかより可愛いペットがたくさんいたから必死にアピールして可愛がってもらったの。

なんで私はこんなに素敵の人に弓なんて向けたんだらう。  
あの時の私どうかしてみたい。

【ご主人様】のお友達にも失礼な事しちゃったし…、今度改めて身体を使ってお詫びしなきゃ。

そんな事を考えながらも両手で数えられないくらいオナニーしちゃって  
るけど、まだまだ足りない。

はやく【ご主人様】に可愛がってもらいたいなあ。

## カード詳細

3

味方の裏切り



名前 <sup>み</sup> <sup>かた</sup> <sup>うら</sup> <sup>ぎ</sup> 味方の裏切り

クラス ニュートラル タイプ -

スペル

相手のフォロワー1体は、相手のリーダーを攻撃できないを持つ。

エンハンス5 選択したフォロワーを消滅させて、同名のフォロワーを自分の場に出す。その際、ファンファーレ能力を発動させる。

優勢だった戦いは一瞬で変わる。頼もしく、信頼していた味方であったはずの者によって。

セット： 妄想カードバックVol.エルフ

「ふうふう……ふうふう……」  
薄暗い室内。牢屋といえるその場所に息遣いだけが響く。

そこには拘束された全裸のアリサが無造作に転がされていた。

彼女は裏切られたのだ。

それも信賴していた味方に。

戦闘中、敵の放った魔術により味方が次々と洗脳されていた。

そうして敵の手に堕ちた味方だった者達によって囚われたアリサはこうして無様な姿を晒している。

塞がれた視界でわかるのは自分は拘束されているのだという事だけだった。

そして、カツンカツンと彼女に近づぐ足音が響いた。



「んふう……ふぐう……」

全裸で無造作に転がされているアリサ。  
牢の扉が開き、誰かが入ってくる音と気配がする。



「んむうっ!?!」

突然の身体に走った衝撃と重さにくぐもつと叫びをあげる彼女。そんな彼女の身体の上

座る一人の美しい女性がいた。彼女の名はカシオペア。アリスの頼もしい味方の一人だったが、敵の魔術によつて洗脳さ

れ今では忠実な下僕となっている。

「随分と無様な姿ね。ウフツ、アハハハツ」

共に戦った仲間であるアリスを見下ろすその視線は、侮蔑と憐れみしかなかった。



「そんな無様なアナタにプレゼントがあるわ」  
アリサの隣に大きな壺が置かれる。シユルシユルとなにかが擦れる不気味な音が聞こえてくる。

「……？」

不意に壺の中から無数の触手が飛び出し、アリサの秘部と尻穴に勢いよく挿入した。

「っ！？」

異物がこじ開けて侵入してくる感覚に声にならない絶叫をあげるアリサ。

ストップ

「あら、気に入られたみたいね。良かったじゃない、お似合いよ」

「んおおおおつ、おほつ、んおつ、あぷうううつ」

訳も分からず獣のように声をあげる事しかできないアリサ。

「お邪魔しちゃ悪いしい……それじゃ、仲良くね。ウフフフフツ」

来訪者がいなくなり、触手に凌辱されるアリサだけが放置される。それでもこの触手が止まることはなく、彼女は犯され続けた。

スポッ  
スポッ

ピクッ

ピクッ



「ふっ…ふっ…」

牢の中に触手壺と一緒に放置されたアリサは休む事なく犯され続けた。

身動きができず、視界も塞がれ、時間の感覚も分からない。

分かるのは敏感な箇所に入られる触手の感覚だけ。

いやがおうにも意識してしまい、最初は苦しいだけだった。それでも今では気持ちよさすら感じてしまう。

彼女は調教されてしまっているのだ。心よりも先に身体を。

そしてしばらくの時間がたった。



「んぐうっ…、んむう…っ、ふふう…♡」

「ウフツ、随分と舐けてもらったのね」

休むことのない触手の凌辱に、完全に調教されてしまったアリサ。

挿入された秘部から溢れた愛液は水溜まりを作り、頬は上気し、熱い息を漏らしている。

「でも、そうね。こんなに節操のない娘にはお仕置きしないよね」

「あぶうっ!?!」

ずるりと触手が抜かれ、触手壺が撤去されてしまう。

そして最初の時のようにアリサ一人が放置される事となった。

フーッ  
フーッ

「あぷっ!?!、かはっ、ほっ、はあっ、はあっ」

数日間そのまま放置された後、不意に顔の拘束具が外される。

「ごきげんよう、気分はどうかしら?」

「どうして…どうしてこんな酷い事するの…?もう、やめてよ…」

「まだ自分の立場が分かってないの?これではご主人様に差し出せないわ」  
思案するようなそぶりをみせるカシオペア。そして邪悪な笑みを浮かべる。

「そうね…これが欲しいんでしよう?あさましくおねだりしなさい」

そう言った彼女は股間のモノを見せつける。そこには彼女の股に取りついた触手がまるでペ○スのようにそそり立っていた。無意識に生唾を飲み込むアリサ。さんざん焦らされてしまったアリサに抵抗する意志など微塵も無かった。

「はい…オ○ンチン欲しいです!もうオ○ンチンの事で頭いっぱいなの…」



「アハハッよく言えました、それじゃ…豚のようにあさましく鳴きなさいー!」  
「あああああっ♡♡オ○ンポきたああああっ♡♡」

十分すぎるほどの太さと長さを持つ触手チ○ポが勢いよく挿入される。  
待ち焦がれた感覚に全身を震わせ嬌声をあげるアリサ。



「これむりいらっ♡きもちよす♡いるのぉっ♡あんっ♡ああんっ♡ああんっ♡」

ズ  
チュッ

ヌ  
ヌッ

グチユグチユと卑猥な音と卑猥な声が反響して響く。  
それから股に触手を生やしたかつての仲間達が次々と押し寄せ、一対多数の大乱交  
が始まったのだった。

一対多数の大乱交

「あはあ……♡きもちいいい……♡えへっ♡えへっ♡」

かつての仲間達による終わらない凌辱に、ついに壊れてしまったアリサ。白濁とした液に塗れてもなお、その顔はだらしない笑みを浮かべている。

「もつとちようらい♡おねがいますう……♡えへへ……♡」

遂に身も心も完全に屈服してしまったのだった。





完全に屈服してしまったアリサは、かつての仲間達の主に差し出される。  
そして彼女も新たに生まれ変わるだろう。

妄信的に忠誠を使う、下僕の一人として。

## カード詳細

5

プレグナント・ホーネット



名前 プレグナント・ホーネット

クラス エルフ

タイプ -



進化前

ドレイン

ファンファーレ 相手の場のフォロワー1体を破壊する。

相手のフォロワーを破壊した場合、進化する。



進化

「離してっ！あ、ああ、い、いやあっ！嫌あああああっ！！」

組み付かれ、産み付けられる者。もう逃げることはできない。

セット： 妄想カードバックVol.エルフ

1

1

「い、いやっ！離してっ！」

森に面した人通りの少ない街道。

攫われた親友を探すため旅をしていたエルフの少女アリサは怪しい風貌な魔術師と思われる人物と遭遇し、突如襲われた。

次々と未知の生物を召喚する魔術師相手に苦戦するも、妖精達の助けもあり戦いの盤面は優勢、後はアリサが最後の一撃を決めるだけだった。

しかしその瞬間に油断もあつたのだろう。

魔術師が召喚していた、巨大な蜂のような生物が後ろからアリサに組み付いたのだ。その際に服をビリビリに破かれた事で恥部を全て晒してしまっている。

羞恥と焦りで抜け出そうとするもがっちりと拘束された身体は身動きする事しかできない。

そしてそのまま上空へと連れ去られてしまった。

森を見渡せるくらいの高さまで連れ去られてしまい、このまま落とすつもりなのかと身を固くする彼女。


しかし振り落とされることはなかった。

はるか上空で彼女の予想もしなかった行為が行われようとしていた。



「どうにかして逃げなきゃ……!」

青空の下で痴態を晒すアリサ。人通りは少ないとはいえ街道だ、少し見上げようなら  
恥ずかしい姿を見られてしまう。  
しかし事態はさらに悪化していく。他の蜂型モンスターまでアリサの下へ集まっ  
てきたのだ。



小型の蜂が2匹寄ってきたかと思うと、突如針を乳首に挿してきたのだ。驚き声をあげるも不思議と痛みは全くない。それどころか刺されたおっぱいの先端から熱を帯び、全身に甘い痺れが広がっていく。その熱が股間に達したとき、確かな官能を持って彼女の身体を震えさせた。そして、彼女の股間が熱く湿っていく。

「あうっ！？！？！？！？」

ツッ

ツッ



ビーン

「あぐうっ……っ？？なにこれ、身体が熱くなつて……あぐうっ！?!?!?」

ズポツ

股間に走る衝撃。組み付いた蜂が大きな生殖器らしきものを勢いよく挿入したのだ。十分に濡れてしまっていたそこはヌプツと音をたて受け入れてしまい、快感に一瞬意識を飛ばしてしまおうアリサ。



「そんなあつ!?!わたし、卵を産み付けられてるっ!?!?!?!?!」  
ドロドロとした液体と共に異物が侵入してくる感覚に慟哭する彼女。自分の身に  
起きている事態に頭が追いつかずなにもできない。やがて大量に産み付けられる卵に  
彼女のお腹がぽっこりと膨らんできていた。

たぷっ

グツグツ





「なにこれえ…っ！わたしのおっぱいが、大きくなって…ん、んっ♡！」

身体の変化はそれだけではなかった。乳房も大きくなり始めたのだ。もはや爆乳を超えるサイズにまで大きくなってしまっている。両乳首はさらに熱を持ち、乳房ははち切れんばかりに張ってきている。

「んんんうっ！おっぱいでちやっただあ…なんでえ…？わたしのからだ…」

勢いよく噴出される母乳。その量はすさまじく、母乳のシャワーを地上に降らせた。彼女の身体は作り変えられてしまったのだ。その身体で卵を産み、その母乳で栄養を与えるためだけの存在に。乳を出す解放感に失禁までしてしまおうアリサ。そしてそのままの姿で彼女はモンスターの巣に連れ去られたのだった。

たぷっ

おっぱい

おっぱい

んん

たぷっ

んん

ちゅるるる…

んん

んん

そのまま連れ去られていくアリサの姿を見ていた魔術師は実験の成功に醜悪な笑みを浮かべた。

彼は様々なモンスターを作り出し実験を行っていた。

アリサを襲った蜂型のモンスターの名前は

【プレグナント・ホーネット】

生殖対象に取りつき、直ちに取っついた対象に催淫性のある特殊な体液を注入する事で母体に最適な身体に作り変える。身体を作り変えられてしまった後は、母体として役に立たなくなるまで解放される事なく、卵を産み育てるためだけの器官として利用され続けるのだ。

やがてもたらされる快樂にのみ依存するようになってしまい、母体自ら離れることを止めてしまう。

こうして母体から産み落とされ孵化した生物たちを再び実験に使うのだ。

魔術師はその場を後にした。

また新たな獲物を探すために。

## カード詳細



名前 プレグナント・ホーネット

クラス ニュートラル                      タイプ -



進化後

ドレイン 守護

進化時 ホーネット・ウォリアーを出産して場に出だし、+X/+Xする  
(Xは効果で破壊したフォロワーの攻撃力と体力の値)

自分のターン開始時、ホーネット・ベビーを出産して場に出す。



進化

「わたし…ママになっちゃったあ…おっぱいもとまらないよお…」  
母体として身体を作り変えられてしまった者の、嘆きの声が響く。

セット： 妄想カードバックVol.エルフ

## カード詳細

1

産卵



名前 <sup>さん らん</sup>産卵

クラス ニュートラル

タイプ -

スペル

フォロワー1体を選択する。そのフォロワーはターン開始時に

モンスターの卵を出産し、場に出す。

「お腹が…、ん、ぎい!?あ、う、産まれ…んおおおおおっ♡♡」

作り変えられた身体は産卵すら最上の快樂。

セット： 妄想カードバックVol.エルフ

「ふーっ、ふーっ、ふーっ、ふーっ」

アリサがモンスターに襲われ巣に連れ去られてから数日たった。その間も犯され、噴出した母乳や体液等で他の犠牲者が産んだ幼体に栄養を与える器官として利用され続けていたのだが、そのアリサも産卵の時期が来ていた。力むだけで脳を痺れさせる快感と若干の苦しさがアリサを襲う。



「んぎっ！？、あ、ああ、うまれっ…お、おほおおおおおおおおおっ！！♡♡♡」  
遂に産卵してしまおうアリサ。一度出してしまえばもう止まらない。予想を遥かに超える  
快感に絶叫の嬌声をあげる。







卵が膣を出ていく度に絶頂の潮吹きをし、母乳を噴出する。

「んおおおっ！！♡♡♡おっ♡♡ほおおおっ♡♡♡」

「おおお…♡おほおお…♡」

産卵による快感の奔流にやられてしまったアリサ。全身を痙攣させながら余韻に浸り、完全に脱力した身体で失禁してしまう。そしてまた挿入され、卵を産み付けられるのだった。





産卵すら最上の快樂として感じてしまいうほどに作り変えられてしまった  
身体。

おおきくなつてしまつたおっぱいも含めて、もし彼女が助けられたとして  
も、元の生活に戻ることはできないだろう。  
たつた一度のミスと油断。その失敗で全てが変わつてしまつたのだつた。

## カード詳細



新米娼婦・アリサ

名前 しんまい しょうふ 新米娼婦・アリサ

クラス ニュートラル      タイプ 娼婦

進化前

守護

ラストワード 淫らな躰 を手札に加える。

進化

「うう…こんな恰好、恥ずかしいよ…」

VIPだけが入館できる高級娼館。新米は羞恥に震え、古参は淫靡に誘う。

セット： 妄想カードバックVol.エルフ

## カード詳細

3

歓楽街の高級娼館



名前 かん らく がい こう きゅうしょうかん 歓楽街の高級娼館

クラス ニュートラル タイプ 娼館

アミュレット

**直接娼館** このバトル中相手のフォロワーを2体以上破壊していて、自分の場に歓楽街の高級娼館がなければ、自分のターン開始時このカードを1枚自分のデッキから場に出す。

相手のフォロワーを破壊するたび、**奴隸娼婦** を手札に加える。

タイプ：娼婦フォロワーが場にでるたび、そのフォロワーを+0/+1する。

ここはお金持ちや身分の高い者だけが入館を許される高級娼館。

レベルの高い容姿に加え多種多様な種族や元王国の姫の接待を受けられる。

セット： 妄想カードバックVol.エルフ

歓楽街。その一角に一際大きく豪華な建物がある。

そこはお金持ちや身分の高い者のみが入館が許される高級娼館だった。

エントランスを抜けた先の大広間では、際立って美しく可愛らしい娘達がほとんど隠せていない露出の多い衣装を着て給仕や接客をしていた。

中には獣人や耳の長いエルフなど異種族もあり、高貴であり気品すら感じる娘もいる。彼女達はいずれも奴隷として売られた者達だ。

彼女達の反応も様々で、淫猥に媚びた笑顔を浮かべてお客様をリードする娘達もいれば、娼館に送られたばかりで羞恥に顔を染め涙を浮かべながら給仕をする娘もいた。

その姿を上等な酒を飲みながら眺め、接客を楽しみ、気に入った女性をそのまま個室に連れ込みサービスを受けるのだ。

入ってきたばかりの娘を自ら調教しようとする客も少なくない。

そして、奴隷商人に捕まってしまったエルフの少女アリスもこの娼館に送られてきたばかりだった。奴隷の身となってしまうたアリスだが、働いてお金を稼いでここを抜け、旅を再開するつもりでいた。まだこの時は。

「ううう……こんな恰好、恥ずかしいよ……んんっ」

視線を感じ羞恥に悶えるアリサ。まだ性経験の薄い彼女が悶えている理由はそれだけではなく、ここで働かされる娘達は皆媚薬を事前に飲まされているのだ。そのため時折官能に声を漏らしてしまい、ハート形のニッププレスに乳首がはっきりと浮いてしまっている。



唐突に後ろからおっぱいを揉まれ官能の声をあげるアリサ。初心な様子の彼女の彼女を見て、入りたての娘を自分好みに調教する事を楽しみとする常連の客に目を付けられてしまったのだ。その手は下半身にまでのび激しく擦られ、快感にトレイを持つ手がガクガクと震えた。

「あうっ！んんうっ！お、お客様、あんっ！」

クチエッ

クチエッ

セミ

セミ

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん





激しく的確な愛撫に絶頂してしまうアリサ。身体全体を激しく痙攣させ、  
持っていたグラスを全て落として割ってしまおう。

「あつ、ダメ、ダメツ、いっちゃん…ん、んんんうううっ♡」



「あうろう…申し訳ございません…はあ、はあ」

その拍子に客の男が来ている服にもかかってしまい、絶頂の余韻のまま謝罪するアリサ。すぐさま他のスタッフ達がかけつけ謝罪と掃除を始めた。そして出来の悪いメイドの躰けと称して、そのまま客の男に個室に連れていかれたのだった。



## カード詳細

3

淫らな躰け



名前 <sup>みだ</sup>淫らな<sup>しつ</sup>躰け

クラス ニュートラル

タイプ 調教

スペル

新米娼婦・アリサ 1体を出す。

自分がこのバトル中にプレイした淫らな躰けが5枚以上なら、

新米娼婦・アリサではなく、高級娼婦・アリサ 1体を出す。

この高級娼館で新米の娼婦は特定の層に好まれる。新米を自分好みに調教する事を楽しみにしている常連の客もいるからだ。

セット： 妄想カードバックVol.エルフ

客の男に個室に連れられたアリサ。豪勢な一室に大きく真っ白なベッドが置かれたこの部屋は、まさしくそういう事をするための部屋で、そのまま意中の娼婦と一日を過ごすこともできるようになっていいる。

客の男はアリサにワインを飲ませるとベッドの上に座らせ、四つん這いで尻をこちらに掲げるように命令した。ワインに混ぜられていた媚薬の効果で、愛液を滴らせひくひくと揺れる秘部を鑑賞しながら自身も高価なウイスキーを嗜み始める。

見られ続けるという放置プレイに彼女は無意識に尻を揺らし、熱い吐息を漏らした。

ひとしきり鑑賞した客の男はイチモツを取り出し、彼女の秘部に挿入をはじめたのだった。

「はらり、はらり、あ、あ、あ、はらり、はらり、はらり、はらり！」

ヌ  
ッ  
ッ  
ッ  
ッ  
...

ゆっくりと挿入され、慣れない感覚に声を漏らすアリサ。  
しかし、媚薬によって発情しきった身体からは愛液が溢れ、すんなりと受け入れた。

「あっ、あっ、あっ、お客様に、粗相を、して、しまいましたあっ！あひいっ」

ビクッ

ビクッ

ズッ  
ズッ

ズッ  
ズッ

ズッ  
ズッ

ズッ  
ズッ

後るから激しく挿入されながら、男の命令で自分が何をしてしまっただのかを言わされ、  
賤けとして張りのあるお尻も叩かれる。



「おほおっ！？あ、ん、んお、おほっ、ひらっ」

ピクッ

ピクッ

グニグニ

チッ

尻を叩いていた男の指が今度は丸出しの尻穴に伸びる。未知の感覚に情けない声をあげながら身体を痙攣させるアリス。媚薬の効果は凄まじく、未経験の穴でも伝わるのは全身を震わせる快感だけだった。





「あふ……はぐら……♡ありがどう♡おつかひ……♡」

ん……

客の男は満足気な顔を浮かべてモノを引き抜く、ゴボリと白濁が漏れ溢れ、膣内をめくる感覚にまた尻を跳ねさせるアリサ。  
しかし男の躰けはこれだけでは終わらなかつた。  
彼女は結局一日中「躰け」され続けたのだつた。

## カード詳細



高級娼婦・アリサ

名前 こうきゅう しょうふ 高級娼婦・アリサ

クラス ニュートラル

タイプ 娼婦

進化前

**守護 突進**

**ラストワード** 淫らな躰け を手札に2枚加える。

自分のターン終了時 自分のリーダーを5点回復。

進化

「いらっしゃいませ！お客様、初めてですか？ウフフ…では、こちらへ♡」  
最初は誰もが自分の境遇を抜け出そうと働いた。しかしそれも過去の事。

セット： 妄想カードバックVol.エルフ



アリスが高級娼館に送られてしばらくの時がたった。

彼女の姿は今だ娼館にあり、その身体を客達に捧げている。  
しかし彼女の様子が大きく変わっていた。

毎日のお勤めによる奉仕、常連の「お客様」による調教、そして快樂。

淫らな日々には彼女は気づいてしまったのだ。

元は奴隷として売られた身だが、ここは腐っても高級娼館。たまたに乱暴なお客様もいるが従順であれば自分の身は保証される。

また、身分の高い客のお気に入りになり、売られる前より良い暮らしをしている者も少なくなかった。

そして調教によって開発された身体に得られる快感、彼女はこの場所を離れる事ができなくなっていたのだ。

「いらっしやいませ！お客様、こちらにどうぞ♡」  
大広間に入ってきたお客様に声をかけ誘導するアリサ。年若い客の男は初めてこの娼館を訪れたのだから淫猥な彼女の姿を見て息をのむ。

アリサ



「ウフフフ♡お客様あ……こっちは初めてですか？」

うぶな反応の若者に密着しおっぱいを押し付けける。膨らんだ股間を優しくなでてあげた。  
「たっぷり楽しんでくださいね♡それとも私がお相手致しましょうか？」

若者が大きく頷くと淫靡な笑みを浮かべながらその手を引き、個室の中へ消えていった。

アリサ

キヤム♡

ムワッ……

「あっ♡おっ♡んおっ♡すっ♡しっ♡やっませっ…んほおおっ♡ー！」

最初は若い男の客をリードしていたアリサだったが、客の男の十分以上の太さと固さと何時間もノンストップで出し続ける精力にいつしか立場が逆転していた。身体の相性も最高で、はしたなく股を開きながら獣のような声をあげるアリサと、ひらすら性欲に動かされ腰を振り続ける客の男。

そのまま一夜が過ぎても、まだ交わっていた。アリスはほとんど意識を飛ばしており、身体をびくびくと痙攣させながら幸せそうなアへ顔を晒している。  
客の男はさすがに満足した様子でアリスをそのままに部屋を出たのだった。



豊満な身体をもつ宮廷魔術師、高貴な司祭、王国の姫とその従者、  
はては森の守護者の身体ですら味合おう事ができるこの場所。

次にこの娼館に送られるのは、どのような娘なのだろうか。  
美しく、可愛らしく、そして誰もが欲しがる特別な存在である事は  
間違いないだろう。



10

## 監獄機械調教



## カード詳細

名前 かんごく きかい ちょうきょう 監獄機械調教

クラス ニュートラル タイプ -



アミュレット

ファンファーレ 相手のフォロワー1体を行動不能にして5ダメージ。

自分のターン終了時、相手のフォロワー1体を行動不能にして5ダメージ。

このカードで相手フォロワーを破壊した場合、奴隷娼婦を手札に加える。自分のターン終了時、相手のフォロワーがない場合、相手リーダーを行動不能にしてバトルに勝利する。相手リーダーが♀なら奴隷娼婦にする。

そこは多数の女性達が機械に拘束され横一列に並べられた異様な空間。

彼女達はその全てを管理され、新たな自分に生まれ変わる。

セット： 妄想カードバックVol.エルフ

「私の矢があなたを貫くっ！」  
古代の機械や様々なアーティファクトを召喚し戦う敵に対して苦戦を  
強いられるエルフの少女アリス。


やがて戦う力<sup>ライフが0になり</sup>を失い、倒れ伏し意識を失ってしまおう。

もしこれがゲームだとすれば敗北してもリトライやコンテニューができた  
だろう、リプレイを見て自分の戦術を確認できたかもしれない。

しかし彼女<sup>アリス</sup>の物語にやり直しはない。

多数の人型の女性達が機械に拘束され横一列に並べられた異様な空間。研究員らしき男達が時折機械を弄りながら好色と実験動物を見るような視線を女達に向けている。これらの機械は女性の身体を性的に改造し調教するためだけのもので、拘束された女性達は日々性的に身体を開発され続けている。

その拘束された娘達の一人にアリサはいた。拘束されている状況ながらも乳首が勃起愛液を垂らすその姿は、彼女も例外なく開発されてしまっている証拠だった。



彼女達は食事・排泄・睡眠全てがスケジュール管理されており、それ以外は全て機械による調教・改造の時間となる。時にはそれらの最中でも機械による凌辱が行われる。今は「食事」の時間だった。タンクに溜まった白濁とした液体が装着されたチューブを伝って口に入っていていき、それらを必死に飲み込んでいく。その液体は多種多様な生物の精液と媚薬、そして栄養剤を混合した特別なモノで、強力な催淫性と依存性を持つそれを継続的に摂取することで、身体は常時発情し精液を飲む事で絶頂にも達するような快感を得る身体になってしまおう。

チューブに溜まっていく液体を時折むせそうになりながら飲み込んでいくアリサ。最初は嫌悪感や抵抗心から拒絶したが、より酷い目に合うと分かってからは飲み込むようになっていった。

【食事】が終わると、【調教・人体改造】の時間が始まる。恥部に挿入されていた機械が愛液を滴らせながら抜かれる。そして今度は明確に責める意図を持った機械が挿入された。


機械が抜かれ、また挿入される感覚。次に何が起ころのかを理解しているアリサは身体を固くするが、秘部からはさらに愛液を溢れさせた。心は堕ちていない、しかし開発された身体は正直な反応を示していた。



そして挿入された機械が激しく動き出す。人同士の交わりでは不可能な速さで動くソレによって、拘束された女性達は一瞬で絶頂に達し、愛液を噴水のように漏らしはじめた。

アリサも例外ではなく、びくびくと腰を跳ねさせながら止まらないお漏らしのように愛液を飛び散らす。





そのまま半日以上の時間が経ち、ようやく機械が止まる。秒刻みで絶頂し続けた女性達だがその程度耐えられるように身体は改造されている。そして再び【食事】の時間となり次はわずかな休息である【睡眠】の時間だった。機械の振動がとまり、拘束されながらも女性達は休むことができる。

ア……

ア……

アリスもしばしの休息に身を委ねる。度重なる絶頂に心も体も疲労しきっており、睡魔には抗えなかった。

【睡眠】していた女性達に突如襲った衝撃、唐突に先ほど挿入された機械が全速力で動き始めたのだ。訳も分からず身体を跳ねさせ絶頂し、くぐもった嬌声の叫びをあげる女性達。

アリサも同様だった。びくんびくんと身体を跳ねさせ、わずかに動く頭を振り乱す。親友を探すため森を出て冒険していたのも過去の話、これが今のアリサの物語だった。







そして、心身ともに完全に屈した者は洗脳され戦闘と性的奉仕を目的とした【操り人形】として、酷使される事となる。

## カード詳細

1

苗床への序曲



名前 なえ どこ 苗床への序曲 オーバーチュア

クラス ニュートラル タイプ -

アミュレット このカードは選択できない。

カウントダウン 10

相手フォロワーを破壊するたび、カウントダウンを1進める

ラストワード 孕みの輪舞曲 を場に出す。

「ヌメヌメして気持ち悪い…！はやく脱出しなきゃ…」

肉壁に取り込まれてしまった娘達が逃げ出そうと必死にもがく声が聞こえる。

セット： 妄想カードバックVol.エルフ

手足に伝わるヌメヌメとした感触で目を覚めます。

まだ意識が混濁していて頭が働かない。

(私、何をしてたんだっけ：？ここはどこ：？)

自分はある目的のため旅をしていたはずだ。森を出て、それから：あつ！  
親友を攫った怪物を見つけて、戦ったんだった。でもそこから思い出せない。  
い。

ぼーっとする頭で動こうとするも身体が自由に動かせない事に気づく。  
手足ががちりと固定されているみたいだ。

だんだんと身体感覚が戻ってくる度に全身に這う不快感がましていく、  
それなのにおっぱいはやけに張っており、先端が熱い。しかもなにか装着  
されているような圧迫感を感じる。

やがて靄がかかっていた視界が晴れ、意識がクリアになってきた。  
そして――

「え、ええっ!?!?!?!」

自分の置かれた状況に心底驚愕するアリサ。ヌメヌメとした肉の樹のようなモノに埋め込まれている自分。周囲を見ても同じような状態の娘達がいっぱいいる。みな一様に裸でアリサ自身も似たようなものだった。それにさきほど感じた胸の圧迫感の正体は、まるで搾乳機のような触手のせいだった。おっぱいも大きくなっているような気がする。

ヌル

ヌル



「気持ち悪い……っ！ー！抜け出さないと、んんん……あ……っ！ー！？！？」

？  
？

ズポッ

Mu

身体の中に異物が勢いよく差し込まれる感覚に声を上げ、息をはく。ヌメヌメとした触手がそのものが潤滑油となり、奥深くまで一気に侵入してしまった。そしてそのまま前後に動き始める。

突然の衝撃にあえぐ事しかできないアリサ。張ったおっぱいがさらに熱を帯び、乳首がはつきりと勃起は始めている。







## カード詳細

5

孕みの輪舞曲



名前 <sup>はら</sup>孕みの輪舞曲 <sup>ロンド</sup>

クラス ニュートラル タイプ -

アミュレット このカードは選択できない。

カウントダウン 5

相手フォロワーを破壊するたび、カウントダウンを1進める

ラストワード 絶望の終曲 を場に出す。

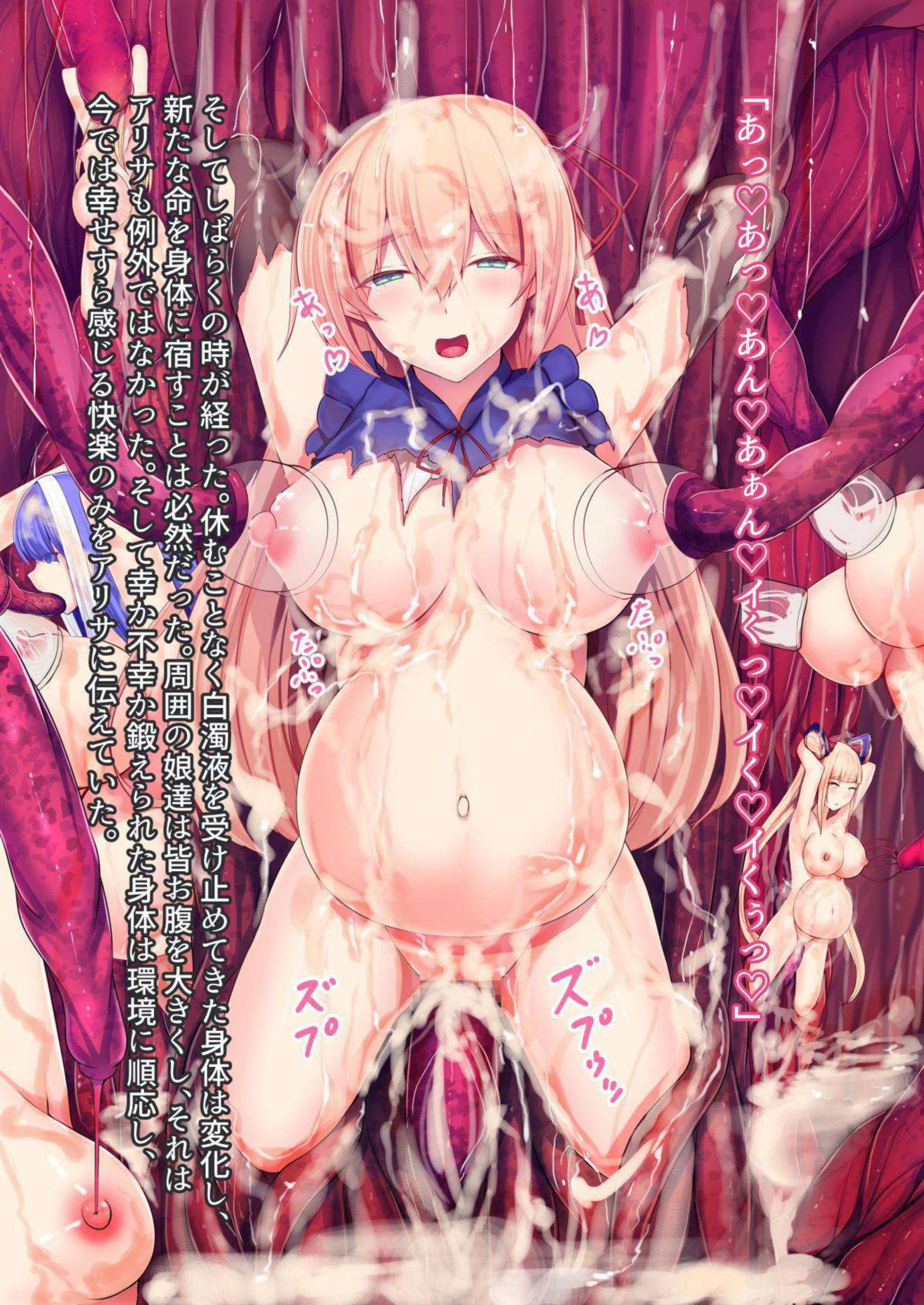
「おなか…くるしい…あうっ！もうイきたくないっ！だれか、助けて…」  
取り込まれ、凌辱され、孕んでしまった娘達。悲痛な叫びがこだまする。

セット： 妄想カードバックVol.エルフ



「あっ♡あっ♡あん♡あん♡あん♡イク♡イク♡イク♡イク♡」

そしてしばらくの時間が経った。休むことなく白濁液を受け止めてきた身体は変化し、新たな命を身体に宿すことは必然だった。周囲の娘達は皆お腹を大きくし、それはアリサも例外ではなかった。そして幸か不幸か鍛えられた身体は環境に順応し、今では幸せすら感じる快樂のみをアリサに伝えていた。



あっ♡

あん♡

あん♡

あん♡

ズッ

ズッ

「おっぱいまたでるうっ♡あうっ!?!?おなかか……ううう……」

ひぐっ♡

フニユッ

プニタッ

白濁にまみれながらおっぱいを噴出する。とても気持ちいい瞬間だった。しかしお腹にはしるいつもとは違う感覚に、うめき声を漏らすアリサ。生命を宿した後に起こることは一つ、産みだすこと。出産の瞬間が訪れようとしていた。

「あはあああああつ♡産まれたあつ♡んんう♡きもちららら♡♡♡」

ズルリと触手生物が出産される。異物をひねりだす感覚にさらに母乳を噴出し歓喜の嬌声をあげるアリサ。出産は二匹では終わらない。そのお腹には無数の生物を宿しているのだから。





そしてアリサは苗床となった。  
彼女だけではない、この空間では無数の娘達が苗床となり、その数は増え  
続けている。

リトライ

これが敗北者の末路。負けた者に、再挑戦など存在しない。

## カード詳細

10

淫楽と絶望の終曲



名前 いんらく ぜつぼう フィナーレ  
淫楽と絶望の終曲

クラス ニュートラル タイプ -

アミュレット このカードは選択できない。

相手のターン開始時と自分のターン開始時、触手生物を出産しランダムで自分の場と相手の場に出す。このカードを含めて場が全て触手生物で埋まった場合、相手リーダーを取り込みこのバトルに勝利する。

自分の場と相手の場にフォロワーが出るたび、それを破壊する。

**【触手生物】** このフォロワーは行動不能。能力やダメージで破壊されない。

「あああ♡また産まれるっ♡出産でイっちゃう♡あ、あ、ああああっ♡♡」  
母体となり絶望し、全てを諦め快樂に見を委ねる娘達の嬌声が響き渡る。

セット： 妄想カードバックVol.エルフ

相手を操る魔術はいくつも存在する。

強制的に意識を操作し人形のようにするものや、催眠術による刷り込み、変わったものでは雌犬のように躡ける事ができる魔術などがある。

その中でも大がかりではあるが効果は絶大である禁術【隷婚の式】の存在ははぐれの魔術師の中では知られていた。

この禁術は、対象を結婚式場を模した固有結界の中に閉じ込め、愛する人との結ばれる儀式の途中だと誤認させる。そのまま儀式を進める事で、身も心も隷属する奴隷に仕立て上げるものだ。

大がかりであり手順を必要とするものではあるが、その効果は絶大で♀と認識できればどんな存在（たとえ神にも等しい存在であるとしても）でも忠実な奴隷となった。

「……はら、誓います」

ここは永遠に共にある事を誓う場所。静謐で神聖な雰囲気醸し出すこの場所に、純白の衣装を着て化粧をしたアリスは立っていた。彼女は結ばれるのだ。愛する人と。



神父であるう人物の言葉に従ってスカートと胸の部分をとりはずして恥部を露出させる  
アリサ。今から「証」を愛する人に着けてもらうためだ。「瞬拒絶の意志が頭によぎるが、  
すぐに塗り替えられ嬉しそうに乳房を差し出すアリサ。





「ちゅ…ちゅるっ、れるっ、ん…ぶあ、んくっ、ちゅり」

儀式は滞りなく進んでいく。誓いの言葉、証の授与、なにかがおかしいと思いつつも、  
幸せな気持ちでそれを意識外に追いやっていき、そして次は舌を絡ませ唾液を交換する  
「誓いの口付け」。幸せと気持ちよさをアリスはたまたまない気持ちになり、熱でうわつ  
いたようなぼーっとした意識になっていた。



「はい…私は…永遠の○○を誓います…」

ぼーっとした意識の中、もうう一度誓いの言葉を言ってしまおうアリス。その下腹部には隷属の証である淫紋が浮かんでいた。そのまま愛する人に「後るから抱え上げられ」ベッドに連れていかれるアリス。何故ここにベッドがあるのか等もう疑問にすら思わない彼女だった。





「はぁ♡はぁ♡んっ♡あったかい…♡」

アリサの膣内に注がれた精液。それにより淫紋がより「層妖しく浮かび上がる。



「永遠の忠誠を誓います…♡〃〃ご主人様〃♡」

純潔を捧げ、膣内に精液を受け入れた事によって儀式が完了する。  
アリスは生まれ変わった。主に忠実な奴隷として。



## カード詳細

2

ハーレムの森



名前 ハーレムの<sup>もり</sup>森

クラス ニュートラル

タイプ -



アミュレット

自分ターン開始時、自分のPPの値と同等のコストのエルフフォローをランダムに手札に加える。

場にハーレムの王があるなら、手札に加えた後そのコストを0にする。

「ようこそお越しくございました…、私達の余興をお楽しみください」

セット： 妄想カードバックVol.エルフ

## カード詳細

7

ハーレムの王



名前 ハーレムの王<sup>おう</sup>

クラス ロイヤル

タイプ 王

アミュレット

カウントダウン 10

自分の場にフォロワーが出るたび、それを+0/+1して、**守護**を持つ。

相手の場にフォロワーが出るたび、それを+2/+0する。

ラストワード このバトルに勝利し、相手リーダーのコントロールを得る。

性別が♀であった場合ハーレムに加える。

豪華絢爛な女の園に君臨する一人の王。その姿を見た者は、どのような女傑もひざまずきその身体を捧げた。

セット： 妄想カードバックVol.1

## カード詳細

7

ハーレムのメイド



名前 ハーレムのメイド

クラス ロイヤル

タイプ 王



アミュレット

自分の場にハーレムの王がある場合、このカードのコストを0にする。

自分のターン終了時、このバトル中に破壊した相手の性別♀フォロワーの数  
(ハーレムに加えた数) だけ自分のリーダーを回復する。

王を喜ばせるために用意された特注の衣装を自ら着て、身体を捧げる女達。

よりどりみどりの女達を、あなたは好きにすることができるのだ。

セット： 妄想カードバックVol.2



「ようこそお越しくださいました、私達の余興……お楽しみください」  
この世界に君臨した一人の男、通称「ハーレムの王」。まるでこの世界をゲームのように数々の女達を魅了し一国の王にまで登りつめた【あなた】は、世界各国様々な種族の美女・美少女を集めた後宮で、悠々自適な日々を過ごしていた。

集めた女達にメイドの恰好をさせ奉仕させたり、調教した女の姿をその女が所属していた国の兵士にみせつけたりもした。しかし【ハーレムの王であるあなた】はさらに女達を欲していた。

ある時、お気に入り入りの娘であるエルフの美少女アリサを可愛がっていると、そのアリサがある提案をしてきた。

曰く、森に招待するので是非来て欲しい……と。神聖な森の守護者であるアリサは人が入ることができない場所でも案内をする事ができる。ただ「歓迎」の準備があるので、少しの間奉仕する事ができないと心底申し訳なさそうに顔を伏せるアリサ。

あなたはうなずくと、あどけない少女の顔と淫楽に染まった魅力的な笑顔を見せた。その日【あなた】は一日中可愛がった。

そして少しの時間が経ち、森に招待された【あなた】。

アリサに導かれてたどり着いた神聖で高貴な雰囲気すら感じる野外広間。

そこでは森に住む種族の女達が集まり、豪華な食べ物や並べられ、歓迎の宴が始まった。

そして集まり並んだ女達の中から、特に可愛らしく・美しい女達が【あなた】の前に進み出る。アリサが言うにはどの娘も高貴な血筋の者達のようなだ。アリサの号令で皆一斉に纏った衣服を脱いでいく。そして裸に金のアクセサリだけをつけた「後宮衣装」となった娘達。

【あなた】その中からまず数人を呼び寄せ、そしてなによりもこの場を用意したアリサを可愛がる事にしたのだった。

「ふあああん♡♡ご主人様あつ♡♡」

最愛のご主人様である「あなた」からのご褒美に全身を震わせて歓喜するアリサがゆっくりと腰を下ろし、受け入れていく。  
呼ばれた娘達も、ある者は嬉しそうに、ある者は興味津々に「あなた」に密着し奉仕を始めた。ぶにぶにと柔らかい肌の感触が全身を包んでいく。





『主様、少し失礼しますね。お気に召して頂ければ良いのですが』  
森の女王であるという金髪の娘が「あなた」の胸に手を当てる。身体に何かか  
宿る感覚、すると周囲に植物の触手や蔓が伸び始めた。どうやら自由に動か  
す事ができるようになったようだ。さらに一時的に触手に伝わる感覚や  
性的感覚まで同調しているらしい。

「あ♡あん♡い♡い♡かが、んっ♡…い♡かがでしようか？あっ♡」

細い蔓を操り娘達の恥部を弄ると柔らかい肌の感触がはつきりと伝わる。そのまま重点的に恥部を弄ってやると、段々と出来上がってきたのか顔は火照り愛液をはつきりと垂らし始めてきていた。挿入されていない周囲の娘達は切なさそうに股を擦りつけている。



「ああああ……っ♡」  
「あ♡はあ♡あ♡あ♡♡」

植物触手を操り、娘達の秘部に「斉に挿入する。嬌声が同時に響いた。触手から伝わるそれぞれ違う感触と娘達を同時に味合う快感が「あなた」を包む。





「激しい……♡いく……♡いっちょやう……♡」  
「あっ♡あっ♡わたしも♡いっちょやいます♡」  
「あん♡♡あん♡♡ごしゅじんさまあ♡♡ああああ♡♡」  
「|||||♡あああああ♡♡♡♡♡」

「一齊に絶頂する娘達。その中でも『あなた』の子種を直に受け止めたアリサは何度もびくびくと腰を跳ねさせながら最上の快樂と歓喜に身体を震わせた。しかし『あなた』がこれで満足するはずもない。周囲に無数に控える美少女達の淫らな顔を見ながら『あなた』は触手を動かす始めるのだった。」



肉欲の熱気に充てられ、奉仕中の娘達は勿論の事周囲で待機している娘達も皆淫らな顔に染まっていく。この淫欲の宴は日が落ちてからも夜通し行われた。  
そしてこの後、森の種族の女達は皆、「ハーレムの王」に永遠の忠誠と服従を誓ったのだった。



神聖なる森の種族の女達までも魅了し手に入れた【ハーレムの王であるあなた】。

時折森を訪れては奉仕させ、良い娘を後宮に送らせたりしている。

次はどんな女達を手に入れようか。

手籠めにした極上の女達に極上の奉仕をさせながら、【あなた】はそう思うのだった。